

町史

とっておきの話

263

福島県中世史研究会

柳内 壽彦

同時代史料が語る只見の歴史②

成法寺観音堂で発見された巡礼納札

―伊北住人妙金の巡礼―

妙金の巡礼納札

昭和四十年から四十一年にかけ

行われた成法寺観音堂の解体修

理の折、一枚の巡礼納札が堂内の

長押上の板壁に竹釘で打ち付けら

れた状態で発見されました。しか

し、修理報告書に記載された後、

その所在が不明となっていました。

それが平成二十七年七月二十二日、

只見町教育委員会による神社仏閣

悉皆調査で成法寺本堂の部屋の押

し入れの中から再発見されたので

す。巡礼納札は山形をした五角形

で、縦一九・一cm、横八・一cm、厚

さ〇・八五cm、材質は杉です。梵字

と銘文は次のとおりです。

サ 永正九年壬申 八月廿二日

キリーク 熊野卅三所巡礼

サク 奥州会津長沼郷伊北住人妙金

この巡礼納札は、会津長沼郷伊

北の住人妙金が熊野三十三所の巡

礼をはたし、永正九年（一五二二年）

八月二十二日の日付をもって板札

に銘文を記して観音堂に納めたも

のです。梵字のキリークは阿弥陀

如来、サは観世音菩薩、サクは勢

至菩薩で、阿弥陀三尊をあらわし

ています。熊野は紀州（和歌山県

の熊野、三十三所は西国三十三所

でしょう。西国札所の第一番が熊

野三山（熊野本宮大社・熊野速玉

大社（新宮）・熊野那智大社）の一

つ那智の青岩渡寺で、熊野参詣を

したあと西国三十三所巡礼へ入っ

ていったと考えられます。長沼郷

はこれまで知られている史料等に

は記されていない郷名です。なぜ

伊北郷としなかったのか、これは

今後の研究課題です。なお、巡礼

者の妙金については伊北郷のどの

村に住んでいたどのような人物か

わからないのですが、『新編会津風

土記』の会津郡和泉田組下山村の

観音寺の宝物に「正観音木像一軀、

座像長九寸余、奥州伊保郷下山村

願主常金・妙巡 峯永正十一年甲戌

以下ノ文字分明ナラスト書付アリ」

の記述があります。妙金は願主の

ひとり妙巡と何か関係がありそう

です。下山村（旧南郷村）は梁取

村の東隣の村で中世の伊北郷に含

まれます。永正十一年は一五一四

年、伊保郷は伊北郷のことです。

熊野信仰

浄土教の普及につれて紀伊の熊

野が阿弥陀浄土に擬せられたため、

平安時代後期以後、熊野三山への



▲観音寺（南会津町下山）の正観音坐像

参詣が盛んになりました。鎌倉時
代以後は皇族・貴族のほかに、武
士や庶民の間にも広まっていしま
す。沿道に約九〇の若王子（三山
の分社）が祀られ、これを拝みつ
つ進むならわしました。先達の引
率により伊南郷の河原田氏、南之
山の長沼氏一族なども熊野に参詣
していたことをうかがわせる史料
があります。先達とは熊野に案内
する人で、引率する参詣者を檀那
と称しました。

三十三観音信仰と巡礼

観音信仰は観音菩薩を崇拜する
ものです。すべての人々を救済し、
この世において利益を得ることが
できるという現世利益の仏として
信仰され、各地に観音信仰の拠点
巡礼は、明応五年（一四九六年）
三月に柳津（柳津町）の一王坊が
三年をかけて成しとげています。
妙金はどのような願いをもって巡
礼に行ったのか興味深いです。

▲成法寺観音堂



▲妙金の巡礼札